

## 9 千臨技精度管理調査（臨床化学）における問題点 ～試料作製と目標値設定～

○末吉茂雄（千葉県循環器病センター） 大野一彦（社会保険船橋中央病院） 長谷健二（帝京大学ちば総合医療センター） 吉田俊彦（千葉大学医学部附属病院）

【はじめに】臨床化学部門におけるサーベイは、目標値を設定し正確さを基盤として実施してきた。しかし、昨今の諸事情より、サーベイを始めた頃とは異なる問題が取りざたされるようになってきた。今回は、実施する側のサーベイに対する問題点として、サーベイ試料作製と目標値設定について報告する。

【問題点】1. 試料作製の問題 本サーベイでは、有志の研究班員施設からのヒト血清（患者検体）を提供してもらい、サーベイ試料に用いている。しかし、毎年、異常濃度領域の試料を収集するには、多くの時間を費やし、十分な試料を確保するのが極めて困難となってきた。これは、近年検査目的以外の検体使用は、倫理上の問題もあり、血清提供施設が減少していることや、参加施設数の増加による必要量が増えたことに起因すると考える。2. 目標値設定の問題 サーベイ開始当初は、標準化が急務であり正確さを求めることが、最重要課題であった。しかし、現在ではサーベイ対象の多くの項目において、国内の測定体系は各検査室における測定値レベルまで整ってきた。このような現状において、今後さらに正確さを追求するためには、測定体系の上位に位置する測定方法や標準物質を用いる必要がある。しかし、現在の研究班では、これらを用いるにはマンパワーや金銭面で困難と考える。

【まとめ】研究班としては、今回の問題点であるサーベイ試料の収集に関しては、参加施設からも血清の提供が可能な場合は協力をお願いしたい。また、正確さを保つことは必要不可欠ではあるが、地域サーベイの利点である参加施設と共に築き上げていくサーベイを目指し、現状の問題点を考慮し方向性を検討していきたい。 連絡先 0436-88-3111

## 10 千臨技臨床化学サーベイにおける中性脂肪（TG）測定値について

○長谷健二（帝京大学ちば総合医療センター） 鈴木学（公立長生病院） 小山宏（千葉市立青葉病院） 末吉茂雄（千葉県循環器病センター）

【目的】千臨技臨床化学サーベイにおける中性脂肪（以下TG）の解析結果より、検量方法の違い（JSCC/HECTEF およびグリセロール基準）やメーカー間による測定値の差について報告する。

【対象と方法】本年度実施したサーベイにおける参加施設の測定値を対象とした。解析方法は、キャリブレーションの設定基準による差を確認するため、検量方法およびメーカー別に分類し、それぞれの測定値を比較検討した。

【結果および考察】

千臨技サーベイでは、昨年度同様に JSCC/HECTEF とグリセロールの基準毎に目標値および許容範囲を設定した。しかし、検量方法別測定値の平均を比較したところ、設定基準により生じる数%の差が、サーベイ集計では認められなかったことから、検量方法の誤った選択が考えられた。測定値分布を確認したところ、検量方法をグリセロール基準と選択した施設の測定値が、HECTEF 基準の目標許容範囲内に多く存在していることが分かった。検量方法分類を修正後、再度平均を比較したところ、試薬メーカーによっても測定値に数 mg/dl の差を認めた。この現象については、さらに詳細な解析が必要と思われた。

【まとめ】今回の報告は、サーベイにおける解析結果である。今後、サーベイ試料の組成分析ならびに各メーカー試薬との反応性について、比較検討を行いたい。なお、検討結果は改めて報告させていただくとともに、来年度サーベイ時に役立てたい。

連絡先 0436-62-1211（内）1175